

SAVE JAPAN プロジェクト「ビーチクリーンアップ大作戦」
実施後の質問紙調査の分析

1. 目的

本事業に参加した参加者が、事業参加の前後で自分の行動や考え方にどのような変容がみられたかを調査する。

2. 研究方法

(1) 調査時期

土佐市会場参加者：1月4日～1月14日（11日間）

黒潮町会場参加者：6月17日～6月30日（14日間）

室戸市会場参加者：6月20日～7月4日（15日間）

(2) 調査対象及び有効回答

本事業に参加した36家族83名。このうち43名が回答(有効回答：51.8%)。

(3) 質問紙項目

質問紙の項目は次の4つである。

- ①イベント参加の前と後で自身の行動や考えに変化はありましたか。
- ②イベント前からやっていたが、さらにやるようになったことにはどんなことがありますか。
- ③イベント前はやっていなかったが、やるようになったことにはどんなことがありますか。
- ④上記のほかに、海ごみを減らすためや、海の生きものを守るために行動したことがあれば自由にお書きください。

(4) 手続き

本事業の事務局が、参加者へ質問紙を郵送もしくはメールにて依頼し、これを受けた参加者が、FAXもしくはGoogleフォームにて回答した。

3. 結果と考察

質問1「イベント参加の前と後で自身の行動や考えに変化はありましたか。」については、いずれも「あった」の回答が多く、本事業全体でも高い(.86)結果を示しており、本事業に参加することの意義が明らかになった（表1）。

表1 イベント参加による自分の行動や考えの変化

回 答	合 計	
あった	37	86.0%
今までと同じ	6	14.0%

質問2『イベント前からやっていたが、さらにやるようになった。』ことにはどんなことがありますか。については、いずれも「エコバッグを持って買い物に行く」(室戸、新居海岸 .83、黒潮町 1.00)が最も高い結果を示し、全体でも (.88) と好結果になっている。このことから、本事業を機に、日常的なエコ活動に対する意識がさらに高まったといえる。また、本事業の活動内容に直結する「ごみの分別をする」について、いずれも高い結果を示している。このことから、本事業の活動内容が日常生活の環境に対する意識に好効果を与えたことがわかる(表2)。

表2 イベント前からやっていたが、さらにやるようになったこと(複数回答可)

回 答	合 計	
海ごみやマイクロプラスチックについて調べる	6	14.0%
道などに落ちているごみを拾う	12	27.9%
川や海のごみ拾いをする	5	12%
買い物のときに容器包装の少ないものを選ぶ	12	28%
エコバッグを持って買い物に行く	38	88.4%
ごみの分別をする	33	76.7%
マイボトルを使う	24	55.8%
ものを大切に使う	26	60%
海ごみについて家族や友達等と話をする	2	5%
その他(内容を下記にお書きください)	0	0%

質問3「イベント前はやっていなかったが、やるようになった。」ことにはどんなことがありますか。については、いずれも「海ごみについて家族や友達等と話をする」(室戸.75、新居海岸.56、黒潮町.77)が最も高く、全体でも (.67) を示している。このことから、家族でごみを拾ったり、拾ったごみに関する話を講師から聞いたりした経験が事後に好効果を与えていることがうかがえる(表3)。

表3 イベント前はやっていなかったが、やるようになったこと(複数回答可)

回 答	合 計	
海ごみやマイクロプラスチックについて調べる	9	20.9%
道などに落ちているごみを拾う	3	7.0%
川や海のごみ拾いをする	3	7%
買い物のときに容器包装の少ないものを選ぶ	2	5%
エコバッグを持って買い物に行く	1	2%
ごみの分別をする	1	2%
マイボトルを使う	3	7.0%
ものを大切に使う	2	4.7%
海ごみについて家族や友達等と話をする	29	67%
その他	1	2%

*ビーチクリーンアップをした際に拾ったものの内容について考えること。

*ごみ拾いまでの行動に移せていないが、この海岸にはゴミが多いなど気にかかるようになった。

質問4「海ごみを減らすためや、海の生きものを守るために行動したこと」の自由記述については、自分に関わることと他者に関わることの2点に大別される。

前者の自分に関わることは次の3点に、集約することができる。

まず、1つ目として、「ごみを減らす」ことがあげられる。具体的には、「プラスチックでなくてよいものは、減らしていきたいと思う。」、「マイボトル、マイスプーンなどを持参し、使い捨て容器等の使用を減らす。」、「買い物をするときに必要な物かをもう一度考える。」の記述がみられた。これらから、とりわけ、プラスチックの必要の可否に対する意識が高まったことがうかがえる。

2つ目として、「ごみを拾う」ことがあげられる。具体的には、「水路のごみ拾いをするようになった。」、「一斉清掃に参加する。」、「自分のものでないゴミも拾って捨てるように意識するようになった。」の記述がみられた。本事業での経験によって、環境美化に対する意識が高まったことがうかがえる。

3つ目として、「環境に対する学習」があげられる。具体的には、「海の生き物についてたくさん勉強する。」、「環境学習で小学生に海ごみの影響について話をした。」などがあげられる。まずは、環境に対する意識を自ら高めることの必要性を、本事業を契機に感じていることがうかがえる。

後者の他者に関わることについては、「環境に対する啓発」があげられる。具体的には、「学校の授業で海ごみに関する興味、関心を広めるため、ポスターを作って発表した。」、「ビーチクリーンアップをしたときのことを友達に話す。」、「環境学習で小学生に海ごみの影響について話をした。」、「清掃活動を企画する。」などがあげられる。このことから、本事業を契機に、周囲へ環境保全に対する自分の考えを表出したいという思いがうかがえる。

これらを総括すると、本事業参加者の多くは、本事業への参加を契機に、日常生活における環境意識を高め、これに伴う行動をよりよいものに行っている。また、自分だけでなく、他者に対しても環境に対する意識を高める手立てを考えていることが明らかになった。